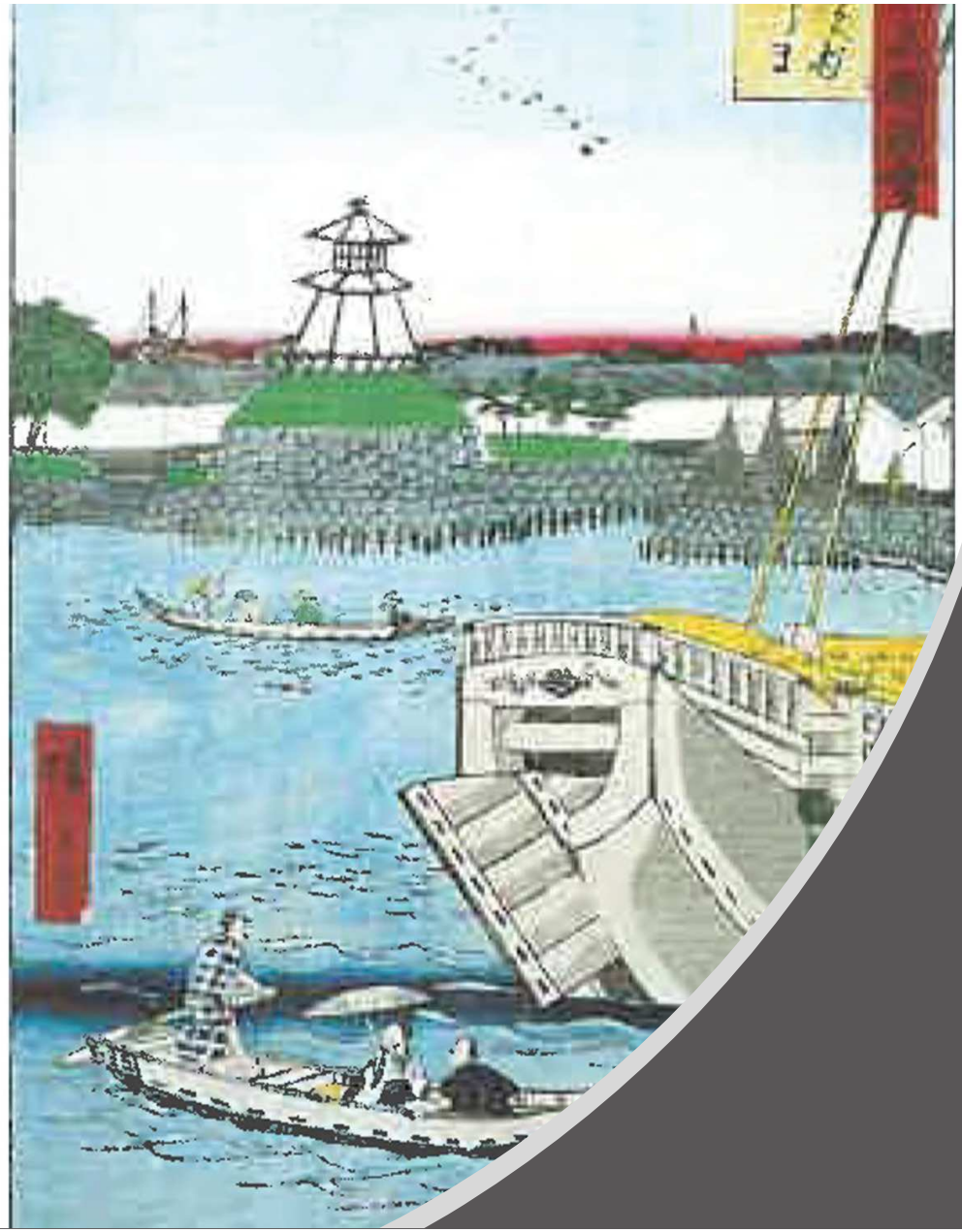


佃島

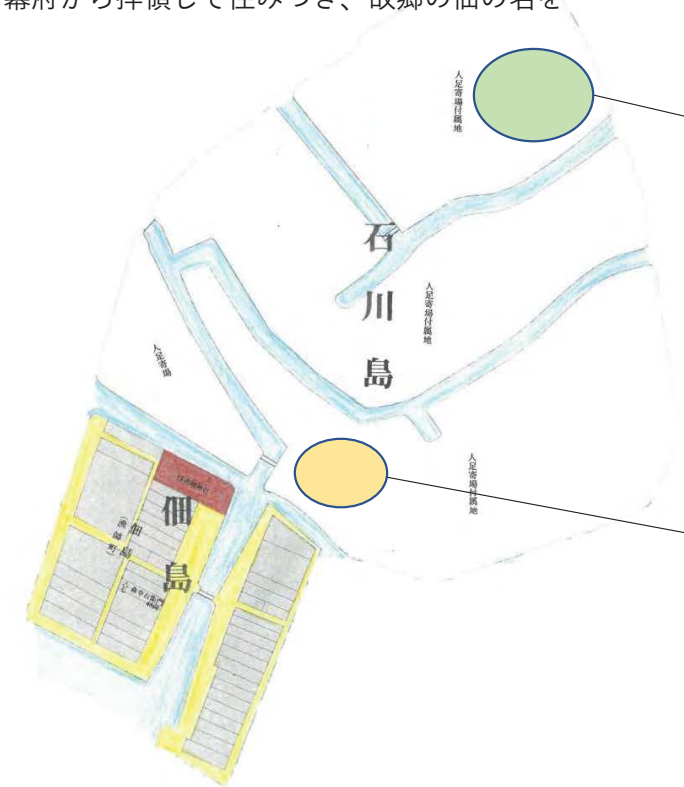
17N1039　小林　奏平
17N1083　西村　亮
17N1081　長岡　杏佳
17N1093　藤吉　洸斗
17N1097　松山　恭子
17N1106　矢田　瑛己

院生　畠山かおり
君島悠太
王崢

明治初期　佃島と石川島

石川島は古くは森島または鎧島と呼ばれました。**石川島**は寛永3年（1626）に船手頭の石川八左衛門が幕府から拝領して、寄洲を島に築き上げた。佃島のほうは18年後の正保元年（1644)に、現在の大阪府の佃からきた漁民が幕府から拝領して住みつき、故郷の佃の名をとって**佃島**と名づけたものです。

富嶽三十六景　佃島



石川島造船所

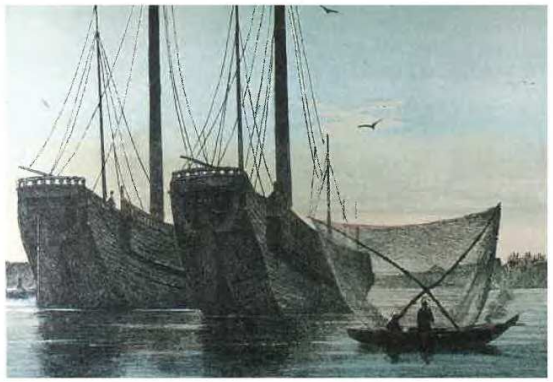
ペリーが浦和にきて開国を迫ってから、約半年後の1853年12月5月日、幕府は石川島を造船敷地と定めて、御三家のうちの水戸藩に設立と運営を命じました。

石川島監獄

1790年に軽犯罪者や無宿の人々の社会復帰を目的に設置された人足寄場は明治三年（1870）に徒場と名を変え、以後懲役場となり、明治10年から警視庁石川島監獄署と改められ、明治28年に巣鴨に移転した。

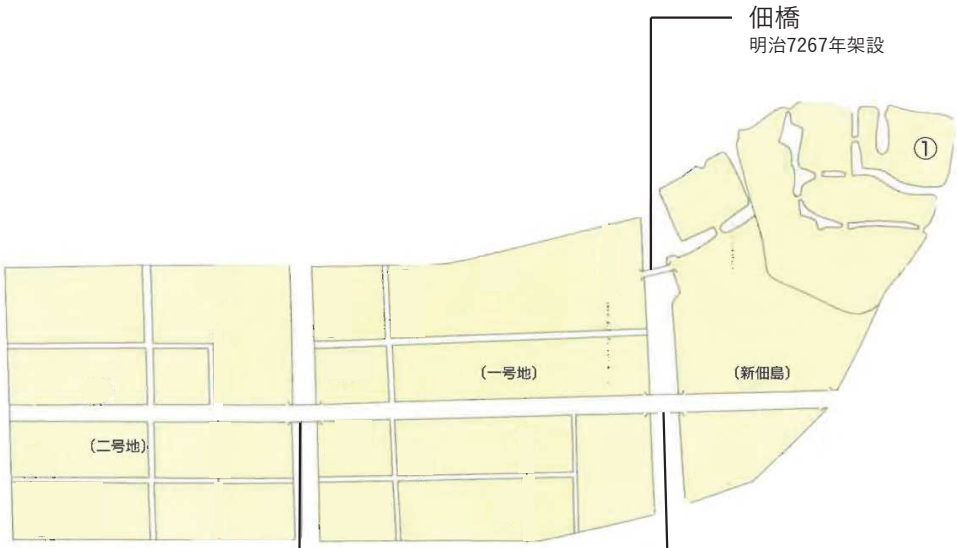
明治30年代の石川島と月島

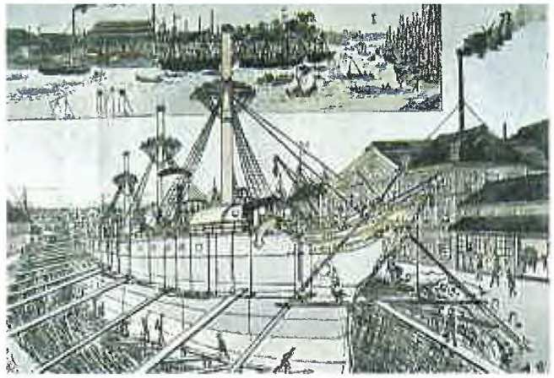
明治維新後、港湾都市東京の繁栄は大幅にと横浜に奪われる結果になりました。東京はそれを巻き返すために「市区改正と品海築港」という東京の近代都市化にむけた一大改造計画を立てました。そして明治17年より月島埋め立て地がつくられました。明治24年（1891）に**月島一号地**、27年に**二号地**、29年に**新佃島**が造成されました。



佃島漁史

佃の沖合で四つ手網による白魚漁がおこなわれていたころの様子

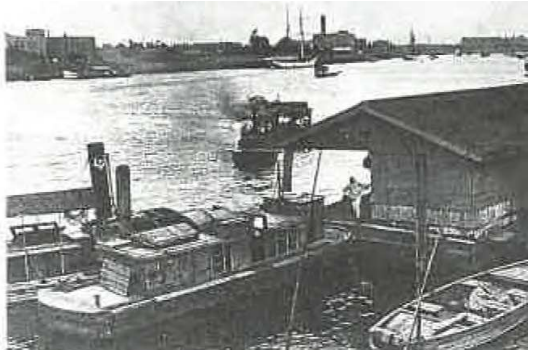




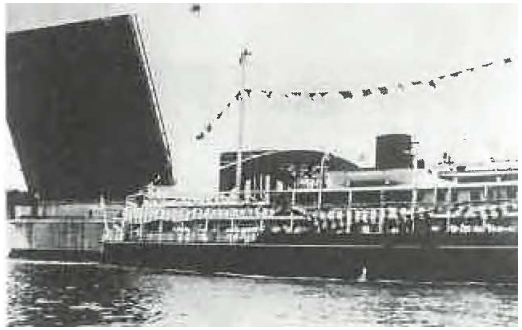
①大工場化した石川島造船所

戦前の月島

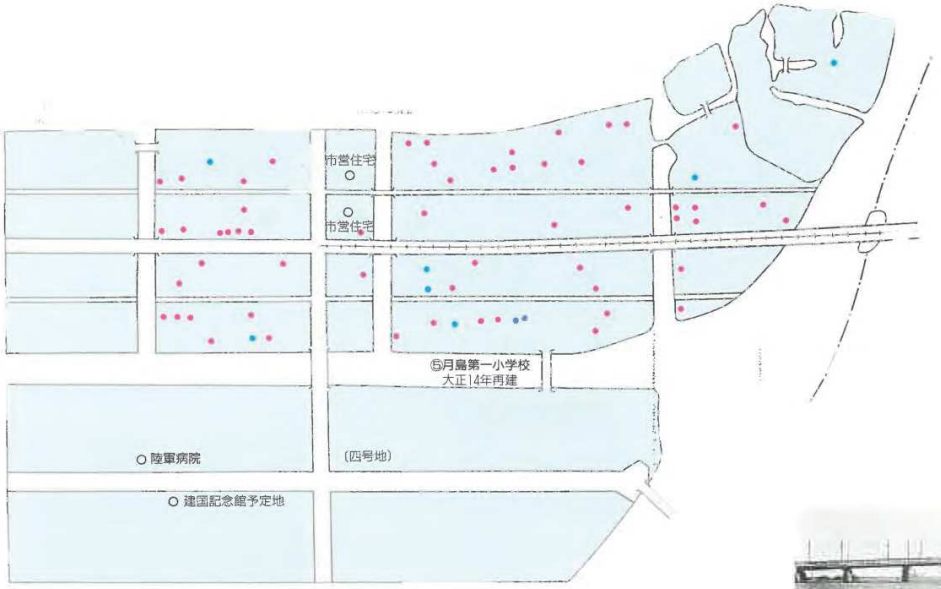
大正15年の相生橋の完成をはじめ、渡船や住宅や学校などの復興も始まりました。翌6年には第三期隅田川口改良工事によって**月島四号地**が完成しました。戦時体制の進行とともに月島は軍需工場地帯となった。



月島渡船



勝鬨橋開通



「東京府工場要覧」による工場分布
● 職工15人以上
● 職工50人以上

復興した月島

月島へ　越中島へ

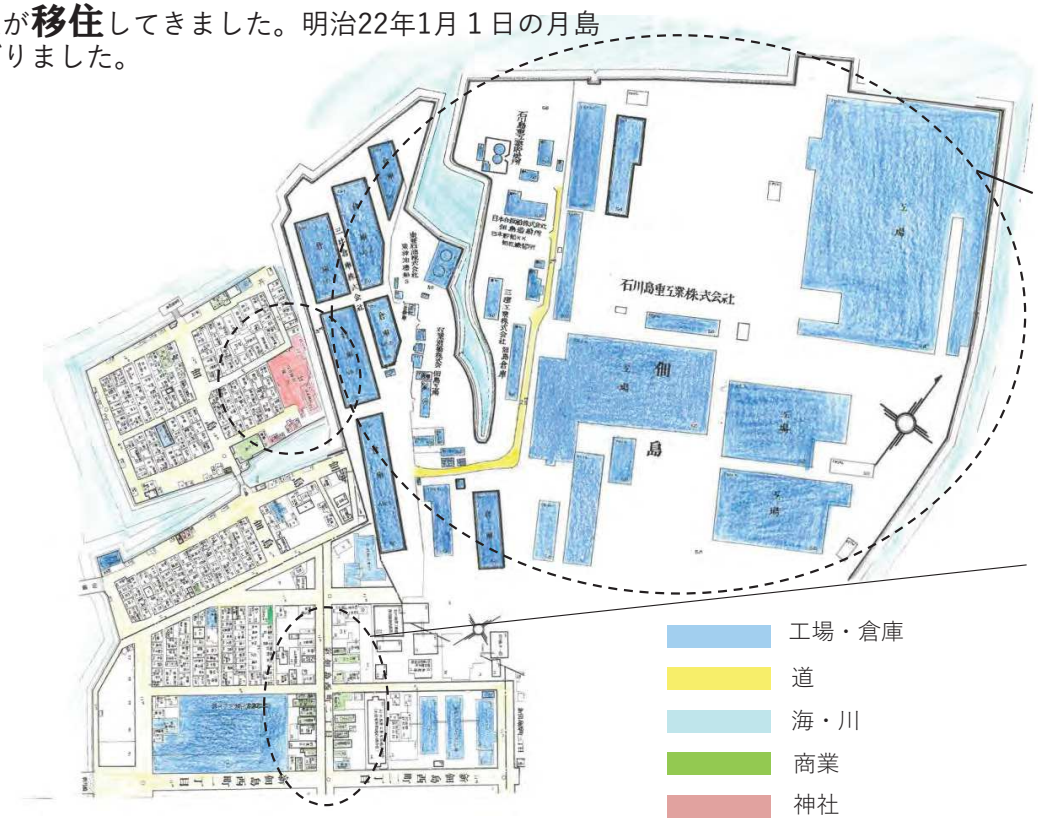
戦後の佃島・新佃島・石川島

戦災をほとんど免れた月島ですが、晴海の相当な部分は占領軍に接収されました。それにより、中央区月島の役割が注目され多くの人が**移住**してきました。明治22年1月１日の月島地区の人口は8820世帯、3万6137人にのぼりました。

佃大橋完成と佃の渡し禁止

交通事情改善のために佃島と明石町を結ぶ架橋工事が開始され昭和39年8月27日に佃大橋が完成した。

臨港鉄道晴海線



昭和の佃島は、戦後の開発などにより多くの工場が建設・増設されている。

赤色の住吉神社は江戸よりの残り続けている。

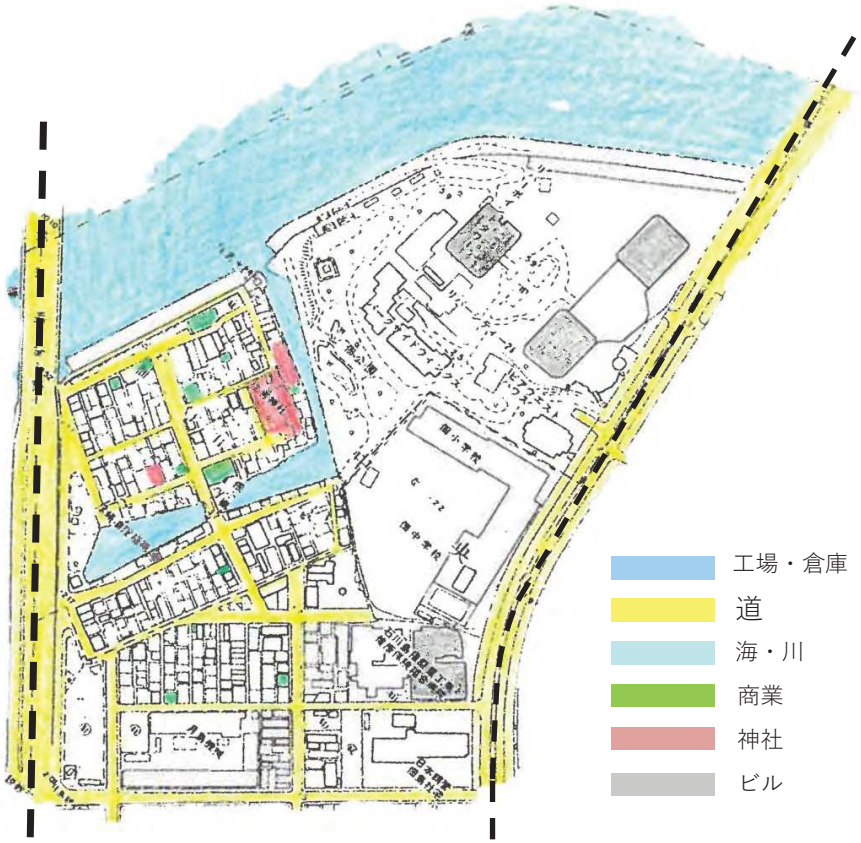
商業施設の多くは月島に集中している。しかし、新佃島（図下側）は中央の通りに商業施設が密集している。

現在の佃島・新佃島・石川島

バブルの時代以来、佃にも多くのビルなどの再開発が始まり、先端と伝統という対照的な雰囲気が混在する月島地区となった。

再開発によるビル群

昔のレンガ作りが残る公園



石川島に建てられた倉庫や工場はなくなり、ビルや緑・公園に再開発されていた。
しかし、新佃島や佃島にはまだ多くの古い住宅が残っている。

交通の便がよくなり、サイクリングや観光の場として栄えていた。

人口が増え、佃島にも多くの住宅が増え、細い通路が増えている。